

## 保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 桑名市社会福祉協議会
施設名	らいむの丘保育園
報告者（役職）	今井 裕子（主任）
住所・連絡先	三重県桑名市大字星川 2239 番地の 1
	☎ 0594-41-3823 E-mail hoiku@kuwana-shakyo.com

### ○タイトル（保育計画）

たくさん動いて考える ～怪我をしにくい体づくりを目指して～

### ○主な助成備品

ゲームボックスアクティブセット、ジャンピングマット  
レインボートンネルアーチ（ピンク・水色）マウンテンポール運動遊びセット等



### 1. 保育計画策定の目的

それぞれの年齢の発達にあった運動遊びを沢山経験することで、他者と触れ合いながら自分の体を知り、周りの人への力加減も知っていきます。また、ねらいを持って運動器具を設定することで、子どもたちが自分で考えながら遊ぶことができ、それが怪我をしにくい体づくりへと繋がっていきます。現代の日本では、乳幼児が安全に、十分体を動かして遊べる

場所や遊具が減っています。そのため保育園では乳幼児が十分に体を動かして遊べる機会をたくさん提供する必要があると考えます。

本園は2022年に高齢、障害、児童の多世代共生複合施設内に開園しました。開園したばかりということで、室内で乳幼児が体を十分に動かして遊べる遊具が揃っていなかったのですが、今回の助成事業で運動遊びをする遊具を子どもたちに提供することができました。子どもたちが自分で考え、自分で決めて行動していく。そんな自主性を持った子どもたちへと成長していけるよう、様々な運動器具を活用する中で、心身共に健やかな成長を図りたいと考えています。

## 2. 具体的な実施内容

室内でアクティブに体を動かして遊べるこれらの遊具は、どの年齢の子どもたちにも人気です。設定をすると嬉しそうに遊ぶ子どもたちの姿が見られます。

### 【乳児】

らいむの丘保育園には大きな遊戯室があるのですが、乳児クラスの子どもたちには少し広すぎるスペースとなり、保育者の目が届きづらく怪我に繋がる危険も考えられました。そのため、保育室前にある廊下やエントランスで遊べるよう、こちらの遊具を設定したところ、子どもたちも集中して遊ぶ姿が見られました。

設定してある遊具の大きさに体を縮こませてくぐったり、登ったり、飛び跳ねたり自分なりに考えながら体を動かして遊ぶことを楽しんでいきます。

時間を区切り、少人数で遊ぶことで待ち時間を少なくし、満足感を味わいながら遊んでいます。



### 【幼児】

幼児クラスの子どもたちは、人数や状況を見て保育室前の廊下、エントランス、遊戯室などに設定して遊んでいます。

ゲームボックスは子どもたちの様子に合わせて組み替えし、設定しています。子どもたちの年齢に合わせて適した動きができるようにしたり、少し難しいことを取り入れたりすることで、子どもたちが「もっとやってみたい」と意欲的に取り組む姿に繋がっていきました。



### 3. その成果と評価

運動遊びをする際の場所や時間をしっかり設定する時もあれば、次の活動への隙間時間などに行うなど、毎日の生活の中で少しずつ取り入れていくことで、運動することに対して苦手意識を持っていた子も“ちょっとやってみようかな”と思うきっかけになっていきました。また異年齢の子どもたちが廊下やエントランスで遊ぶ姿を見て“自分たちもこんな風に動いてみたい”という思いになり、運動に対してまた意欲的になっていきました。

運動を沢山することで、怪我をしにくい体づくりを目指してきました。開園から2年が過ぎ、転倒などでの擦り傷等は見られますが、大きな怪我に繋がる事象には至っていません。

#### 4. 今後の課題と展望

運動遊びを始めた頃は「できないからやりたくない」「むずかしいからわからない」と消極的になってしまう子も中には見られましたが、定期的に運動遊びに取り組むことで少しずつできることが増えていき、それが自信や意欲へと繋がっていきました。また、遊具をサーキット形式で配置することにより、友だちとぶつからないように動く、順番を待つ、空いている所に向かうなど、自分で判断し行動する力にもなっていると思います。

乳幼児期に十分に体を動かすことは、身体能力のみではなく、心の成長にも繋がることを改めて感じました。今後も年齢に応じた運動遊びが活発に行えるよう、園内研修等で学び合いながら行っていき、より怪我をしにくい体づくりを目指していきたいと考えています。

以上